

2015年(平成27年)3月期 決算説明会

長瀬産業株式会社
2015年5月26日

目次

- | | |
|---------------------|------|
| 1. 2015年3月期 決算概況 | P.3 |
| 2. 2016年3月期 業績見通し | P.13 |
| 3. 中期経営計画の総括・長期経営方針 | P.19 |
| 4. (参考資料)セグメント別概況 | P.28 |

2015年3月期 決算概況

3

連結決算の概況

- 売上高: OA・家電用途向け樹脂事業および自動車関連事業等の売上増加により増収
- 営業利益: 売上総利益の増加や退職給付費用の減少等により増益
- 当期純利益: 税制改正に伴う繰延税金資産の取崩し等により減益

(単位: 億円)

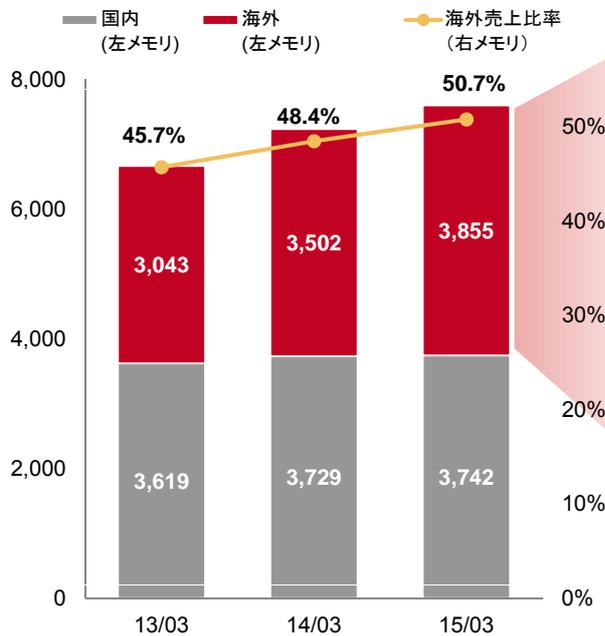
	14/03	15/03	増減額	前期比	公表見通し (2Q修正)	差額
売上高	7,232	7,597	+365	105%	7,600	△2
売上総利益	889	919	+30	103%	911	+8
<利益率>	12.3%	12.1%	△0.2pt	—	12.0%	—
販売費及び 一般管理費	731	738	+6	101%	743	△4
営業利益	157	181	+23	115%	168	+13
経常利益	179	203	+24	114%	187	+16
当期純利益	116	113	△3	97%	128	△14
US\$レート (期中平均)	@100.5	@109.9	@9.4円安		@103	@6.9円安

(1円あたりの為替変動による売上高および営業利益への影響)

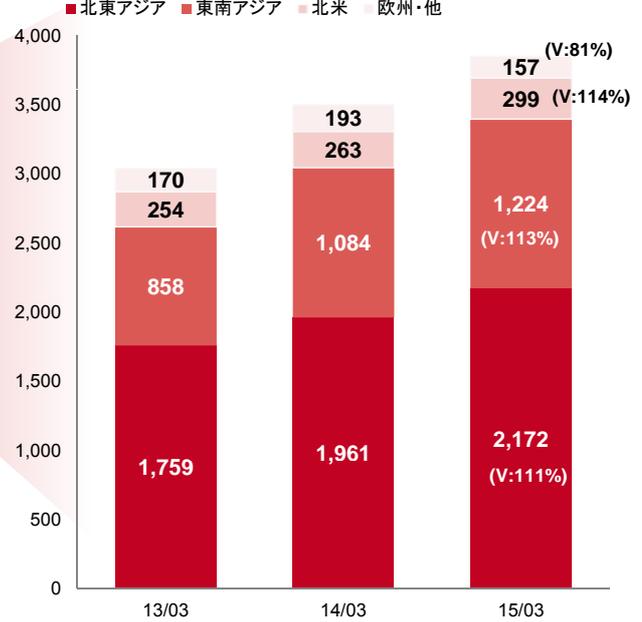
	1円のドル円レート変動による影響額	15/03期実績に与えた影響額
売上高	約32億円	+約300億円
営業利益	約0.8億円	+約8億円

■ 欧州・他を除く全地域で売上が増加し、海外売上高比率が上昇(50%超へ)

国内・海外売上高(億円、%)



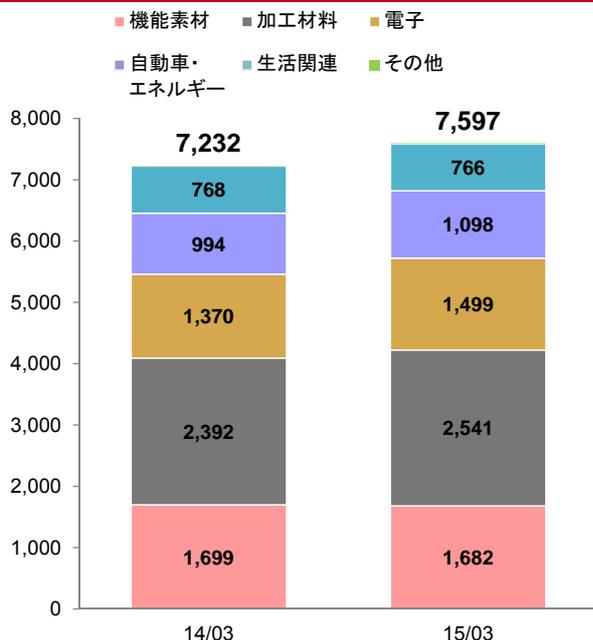
海外売上高の地域別内訳(億円)



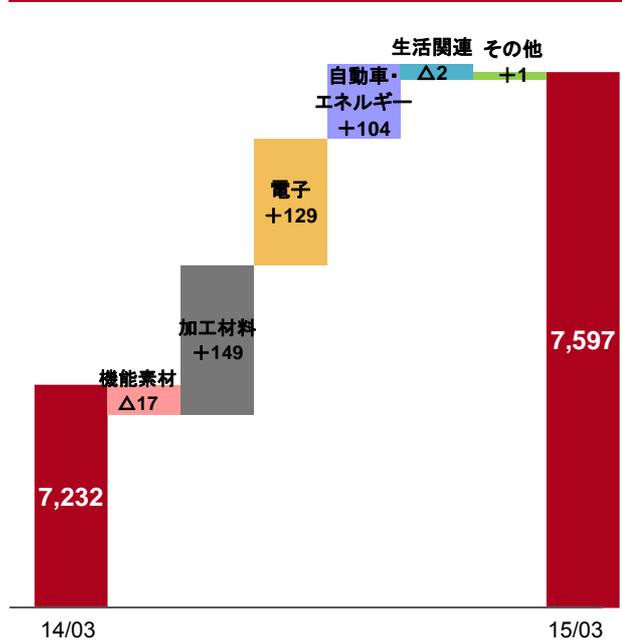
※V:前期比

- 加工材料:OA・家電用途向け樹脂事業の売上が好調
- 電子:LED関連部材、ガラス関連事業およびタッチパネル用部材の売上が好調
- 自動車・エネルギー:国内、中国および北米において自動車関連部材販売が好調

セグメント別 売上高(億円)



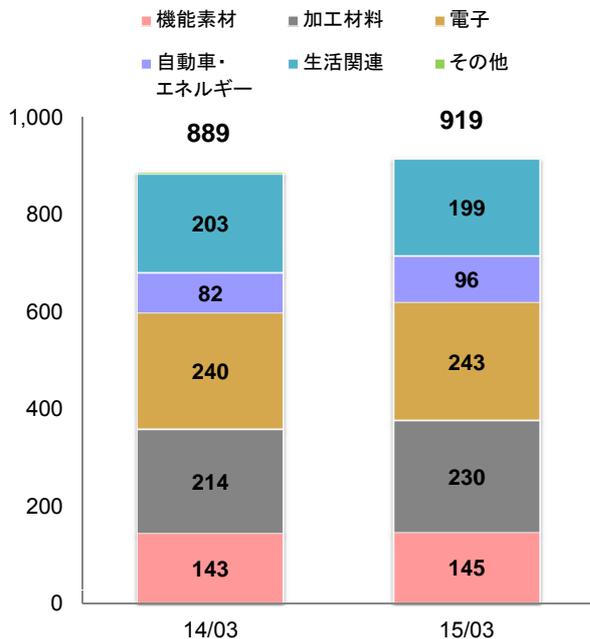
セグメント別 売上高増減(億円)



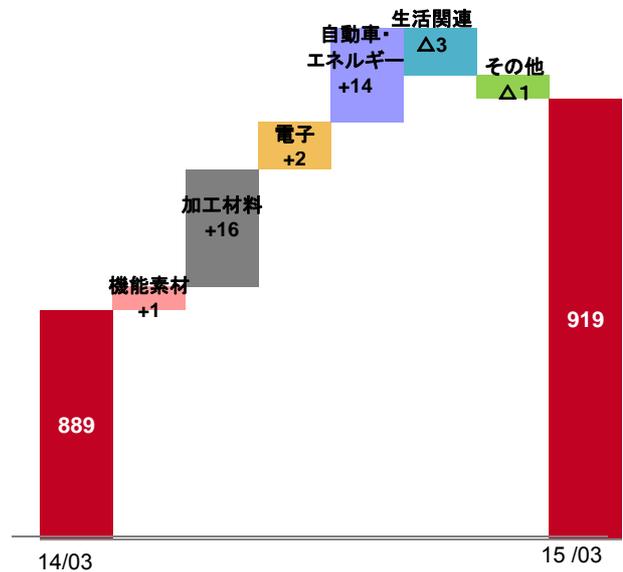
※14/03実績は、15/03期からの組織変更を考慮した数値に組み替えております。
(電子セグメントに属していたネットワーク技術開発チームを自動車・エネルギーセグメントへ移管)

■ 売上の増加に伴い増益

セグメント別 売上総利益(億円)



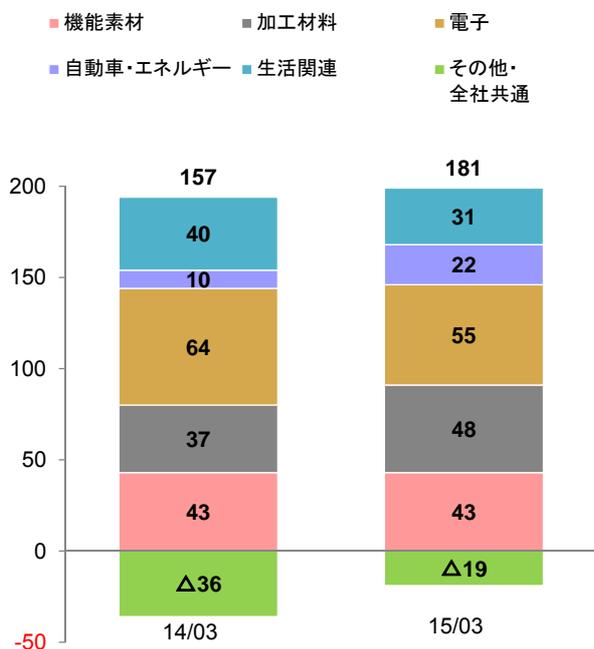
セグメント別 売上総利益増減(億円)



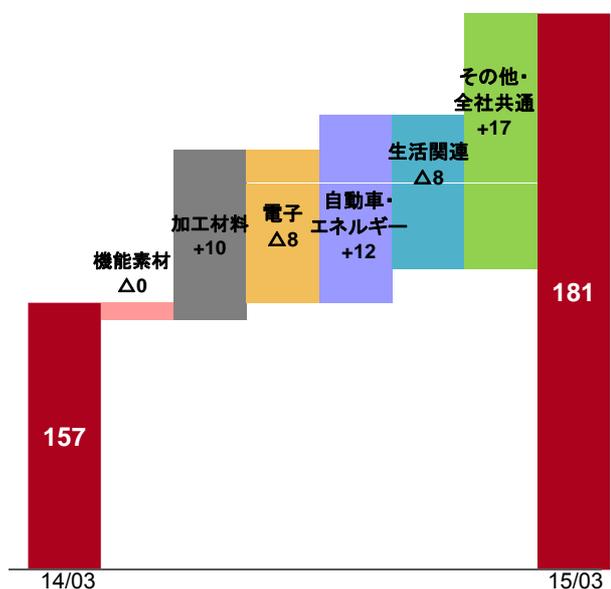
※14/03実績は、15/03期からの組織変更を考慮した数値に組み替えております。
 (電子セグメントに属していたネットワーク技術開発チームを自動車・エネルギーセグメントへ移管)

- 電子セグメントにおいて、台湾子会社で貸倒引当金計上
- 退職給付債務の数理計算上の差異の償却に伴う退職給付費用が減少し、損益改善

セグメント別 営業利益(億円)



セグメント別 営業利益増減(億円)



※14/03実績は、15/03期からの組織変更を考慮した数値に組み替えております。
 (電子セグメントに属していたネットワーク技術開発チームを自動車・エネルギーセグメントへ移管)

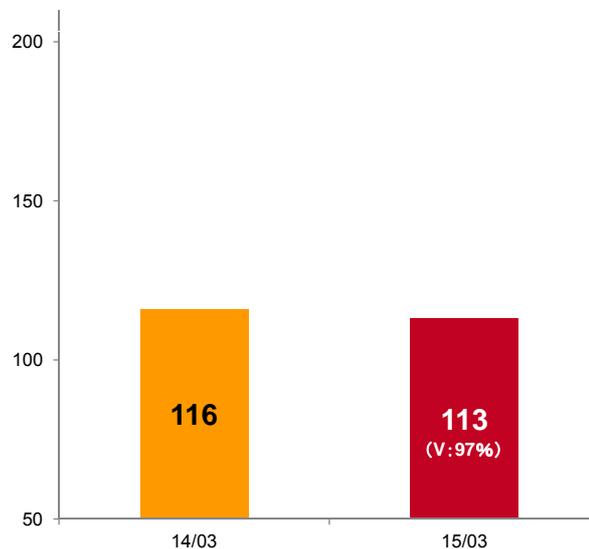
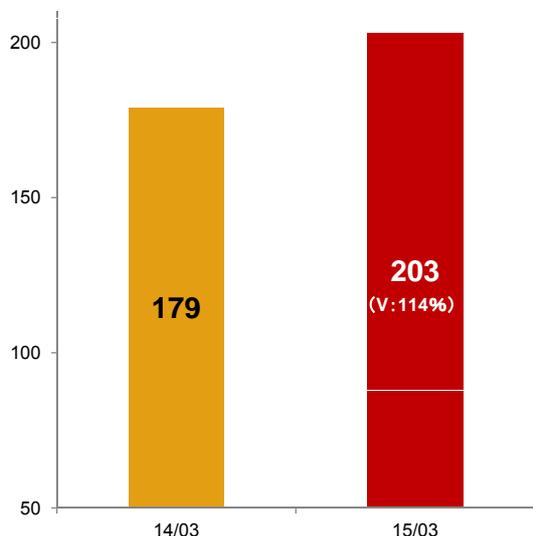
■平成27年度税制改正に伴い繰延税金資産を取り崩したことにより、法人税等調整額が11億円増加し、当期純利益は113億円

経常利益（億円）

当期純利益（億円）

(単位:億円)

(単位:億円)



※V:前期比

■林原は、主力製品トレハ®の食品業界向けに海外販売は好調に推移したものの、夏場天候不順の影響等を受けスキンケア業界向けAA2G®が低調に推移し、また減価償却費など一般管理費の増加等を受け、前期並みに推移

(単位:億円)

社名		売上高	前期比	営業利益	前期比
単体	長瀬産業	4,512	102%	45	160%
製造会社	林原	237	98%	47	96%
	ナガセケムテックス	263	101%	20	85%
	製造会社計(注)	979	104%	82	118%
国内販売会社	ナガセプラステックス	338	103%	5	116%
	西日本長瀬	72	112%	3	200%
	ナガセケミカル	153	93%	2	102%
	国内販売会社計(注)	845	98%	14	99%
海外販売会社	長瀬香港有限公司	646	102%	10	68%
	ナガセタイランド	352	108%	9	99%
	上海華長貿易有限公司	336	114%	9	115%
	海外販売会社計(注)	3,507	109%	62	96%

※注) 各カテゴリの合計は、対象会社の単純合算値であり、連結決算数値と一致いたしません。

■ 自己資本比率が2.0ポイント上昇し51.5%へ(前期末時点49.5%)

資産				負債及び純資産			
	14/03	15/03	増減額		14/03	15/03	増減額
流動資産	3,063	3,298	+234	流動負債	1,636	1,764	+127
現金・預金	349	405	+55	支払手形・買掛金	1,050	1,057	+7
受取手形・売掛金	2,029	2,082	+52	短期借入金 (1年内返済予定長期借入金含む)	354	377	+23
棚卸資産	574	690	+115	1年内償還予定の社債	—	100	+100
その他	109	120	+11	その他	232	229	△2
固定資産	1,917	2,166	+248	固定負債	826	826	△0
有形固定資産	639	667	+28	長期借入金	271	303	+31
無形固定資産	530	488	△41	社債	300	200	△100
投資・その他の資産合計	748	1,010	+262	退職給付に係る負債	118	108	△10
投資有価証券	662	926	+263	その他(繰延税金負債等)	135	214	+78
その他	85	84	△1	負債合計	2,462	2,590	+127
資産合計	4,981	5,465	+483	純資産	2,518	2,875	+356
				株主資本	2,193	2,263	+69
				その他の包括利益累計額	273	550	+277
				その他有価証券評価差額金	247	449	+201
				為替換算調整勘定	22	94	+72
				その他	3	6	+2
				少数株主持分	51	61	+9
				負債・純資産	4,981	5,465	+483

■ 設備投資等による投資支出や運転資金の増加があった一方、利益計上によるキャッシュ創出や長期借入金の増加等により、現金及び現金同等物は66億円の増加

キャッシュ・フローの状況

(単位:億円)

	14/03	15/03	主な内訳
営業活動によるキャッシュ・フロー	+127	+154	税前利益+189 減価償却費・のれん償却額+109 運転資金▲97 法人税等▲83
投資活動によるキャッシュ・フロー	▲141	▲77	有形・無形固定資産の取得▲119 投資有価証券の売却+24 定期預金の減少+11
財務活動によるキャッシュ・フロー	▲118	▲32	長期借入金の返済▲68 配当金支払▲36 長期借入金の増加+93
現金及び現金同等物に係る換算差額	+11	+21	
現金及び現金同等物の増加額(▲減少額)	▲121	+66	
現金及び現金同等物の期首残高	458	338	
その他の変更による影響額 (新規連結および連結除外に伴う増減)	+1	+0	
現金及び現金同等物の期末残高	338	405	日本 223 グレーターチャイナ 111 アセアン 46

2016年3月期 業績見通し

13

2016年3月期 業績見通し

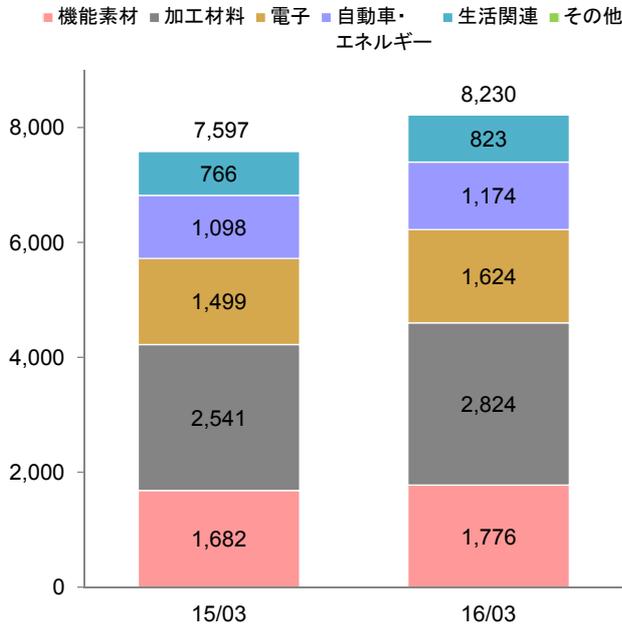
- 特に加工材料セグメントおよび電子セグメントにおいてアジアを中心に売上が増加
- 赤字子会社が損益改善

(単位:億円)

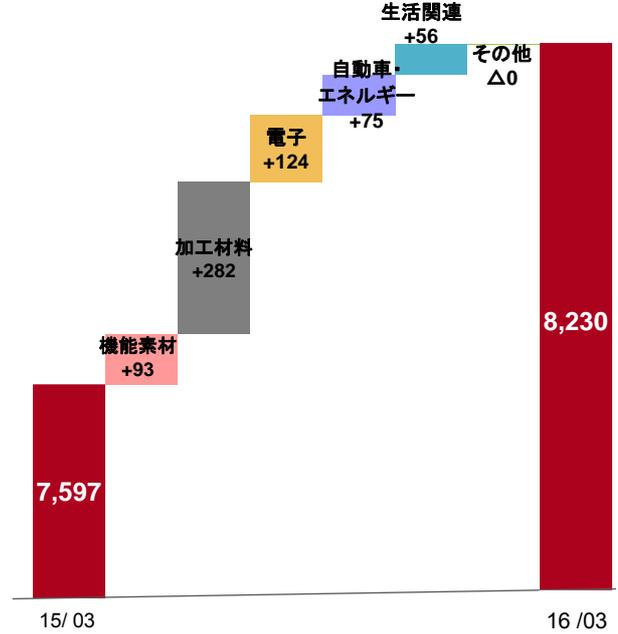
	15/03実績	16/03見通し	増減額	前期比
売上高	7,597	8,230	+632	108%
売上総利益	919	973	+53	106%
<利益率>	12.1%	11.8%	—	—
販売費及び 一般管理費	738	778	+39	105%
営業利益	181	195	+13	107%
経常利益	203	206	+2	101%
当期純利益	113	121	+7	107%
US\$レート (期中平均)	@109.9円	@120円	@10.1円安	—

- 国内外においてOA・家電用途向け樹脂事業が好調に推移
- 主にスマホ・タブレット関連ビジネスが好調に推移

セグメント別 売上高(億円)

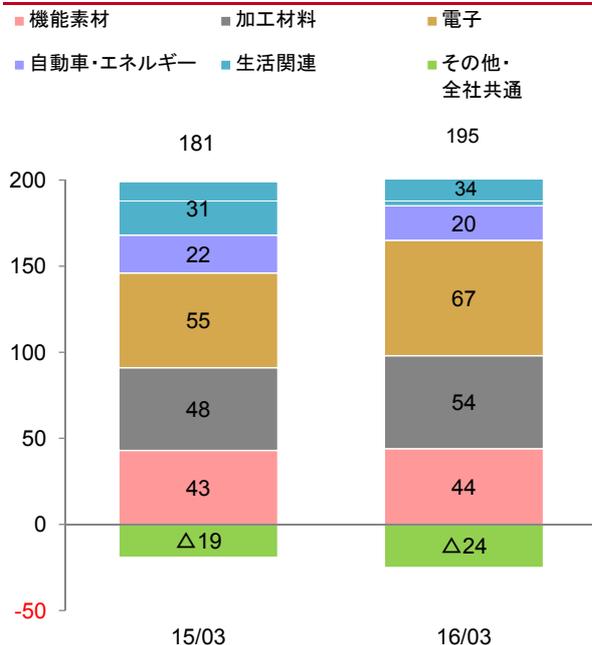


セグメント別 売上高増減(億円)

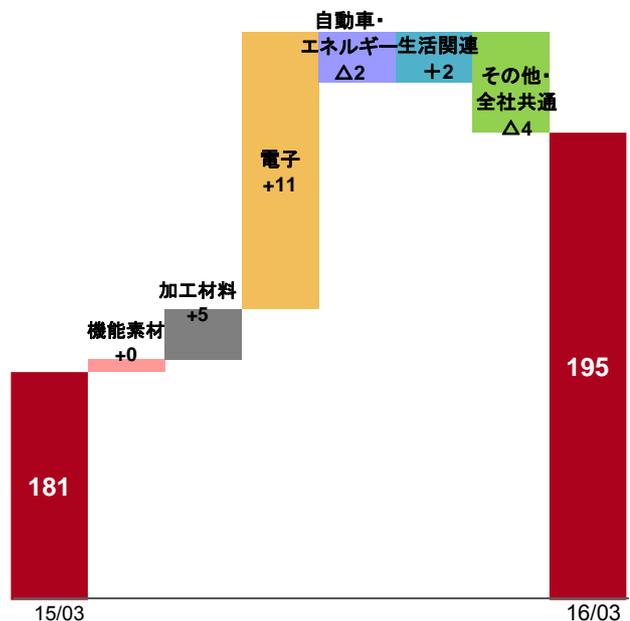


- 投資に伴う減価償却費の増加等があるものの、売上の増加に伴う売上総利益の増加や、赤字子会社において損益改善がなされ増益となる見通し

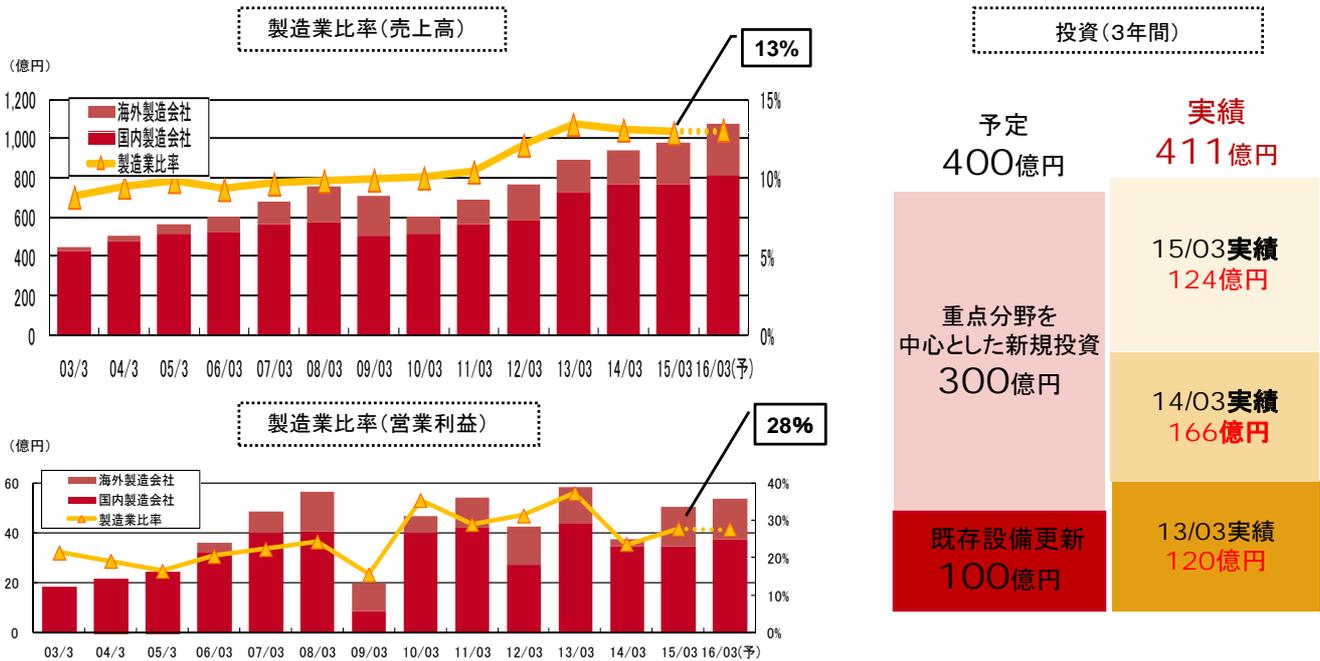
セグメント別 営業利益(億円)



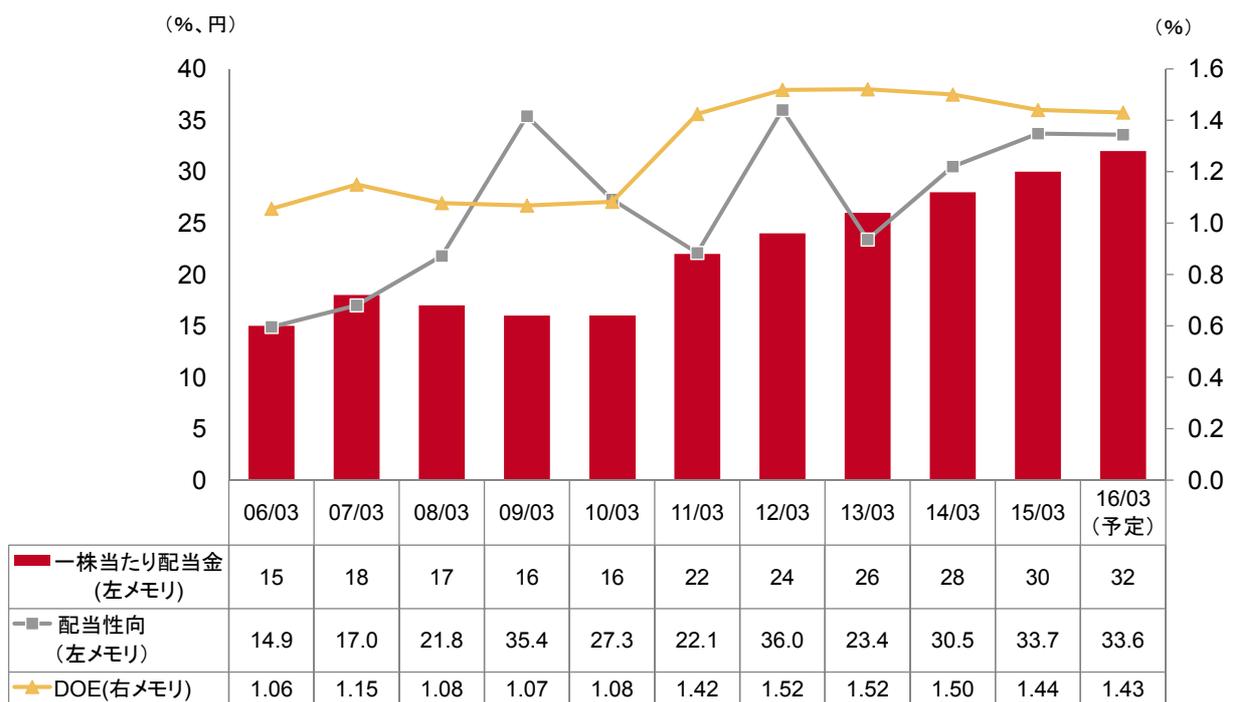
セグメント別 営業利益増減(億円)



■ 製造機能、研究開発機能、技術・情報力、グローバルネットワークを強化する投融資の実行により、独自性・優位性を創出し、事業の質の向上と企業価値の向上を図っております。



■ 来期は、中間配当金16円、期末配当金16円の年間配当金32円を予定



※15/03期の期末配当金は、2015年6月開催予定の株主総会にて付議予定

中期経営計画の総括・長期経営方針

位置づけ “CHANGE”の加速

基本戦略

事業と運営の質の向上を加速(Speed Up)

重点分野のバリューチェーンにおいてナガセグループの総合力を発揮(Step Up)

独自のソリューションをグローバルに展開し、持続的成長(Sustainable Growth)

重点分野

「バイオ」、「環境・エネルギー」、「エレクトロニクス」技術を活用した分野

重点施策

グローバル化の推進、高付加価値事業の創造、運営基盤の強化

【重点分野における事業強化】

1. バイオ関連技術を活用した分野

・事業の柱(林原)を持ち、引き続き強化していくステージ。

- ・林原製品の海外での販売体制を再構築し、海外売上は増加
- ・ナガセR&Dセンターの研究対象をバイオ技術に絞り、グループの横断的な研究開発の中核として位置づけ、基盤技術の蓄積と応用研究を実施

2. 環境・エネルギー関連技術を活用した分野

・事業の核を模索しているステージ。事業の立ち上がり遅れにより収益面で当初計画との乖離が大きい

- ・キャプテックスのリチウム2次電池モジュールは市場・用途に合わせカスタマイズした開発の途上

3. エレクトロニクス関連技術を活用した分野

・事業の核はあるが、次の核が必要なステージ。地域間での展開格差、製造子会社の収益性が落ち込む

- ・スマートフォン・タブレット端末向けにグローバルな提案・調達活動により部材販売が好調に推移
- ・中国での液晶パネル向け薬液供給会社への出資を決定

【運営基盤の強化】

- ・「投資ガイドライン」の策定とその運用を通じ、投資の質の向上を図るとともに、不採算事業から撤退を実施
- ・海外現地法人に新基幹システムを順次導入し、連結運営体制を強化
- ・グローバル人材育成としてグループ全体の人事交流および人事制度の整備を実施、BCP対策も含めナガセグローバル人材開発センターを設立

■ 目標数値は達成できず

【3カ年の実績】

	2012年度実績	2013年度実績	2014年度実績	2014年度当初目標 (2011年5月公表)	差額
売上高	6,662億円	7,232億円	7,597億円	8,000億円	▲403億円
営業利益	155億円	157億円	181億円	300億円	▲119億円
ROE	6.5%	4.9%	4.3%	8.0%	▲3.7pt

主な要因

新規事業の立ち上がりの遅れ

環境・エネルギー分野が開発ステージに停滞

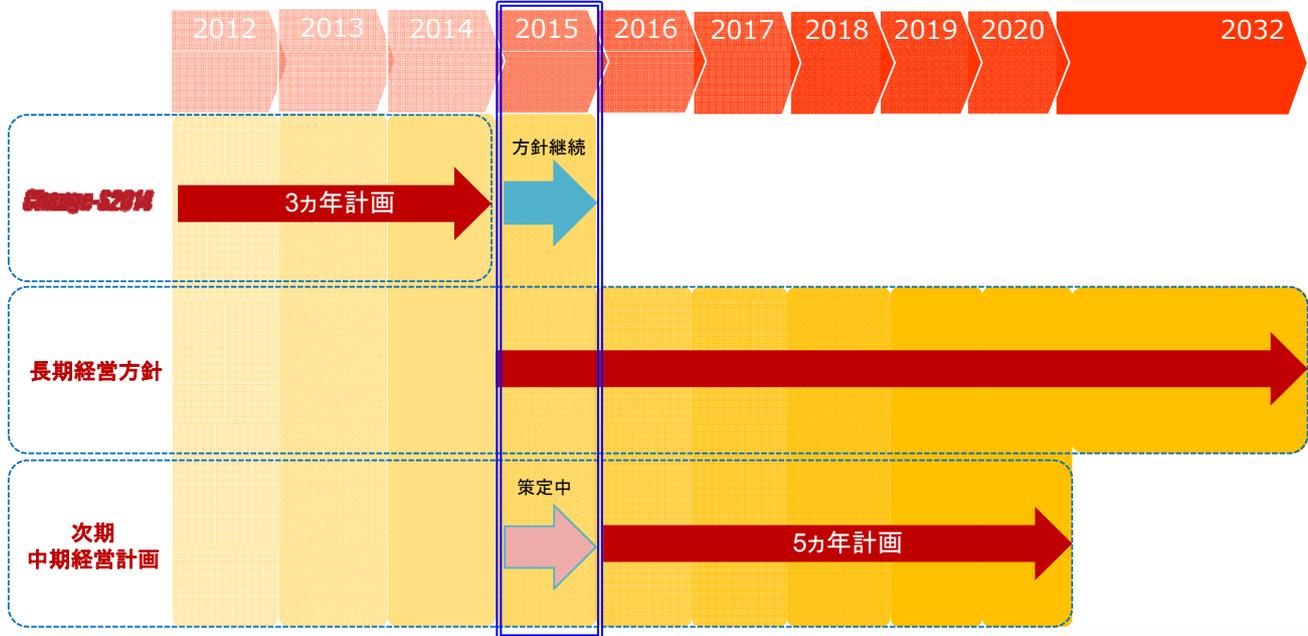
グローバル展開の分野・地域間での展開格差

自動車関連は中国・北米を中心に概ね予定通り
機能素材は海外事業の展開が進まず

グループ製造会社の収益性

製造子会社の立て直し遅れ → 時間軸はずれたが、収益改善は進む

- 2015年度は単年度計画とし、2016年度より次期「中期経営計画」を実施
- 創業200周年の節目となる2032年までの「長期経営方針」を策定
- 本年度は「長期経営方針」に沿った次期「中期経営計画」を策定
- 次期「中期経営計画」は5ヵ年計画とする方針



従来の延長線上では、低位成長にとどまり目標を下回る

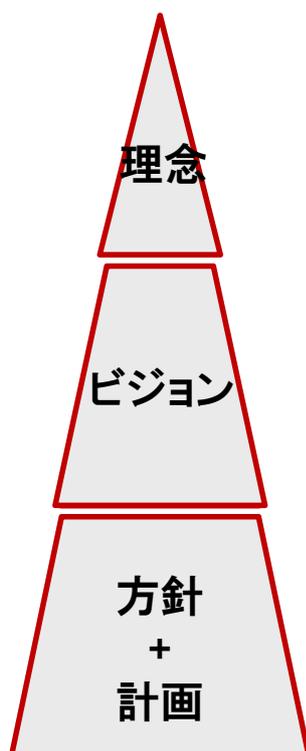
抜本的な改革が必要

目指す将来像を明確にし、
グループ内で共有すべき基本的考え方や行動のあり方も含めた
ビジョン・長期経営方針が必要

社長直轄による
グローバルブランディングの活動

経営陣による
長期経営方針の策定

グループの理念体系の見直し



NAGASE 経営理念

社会の構成員たることを自覚し、誠実に正道を歩む活動により、社会が求める製品とサービスを提供し、会社の発展を通じて、社員の福祉の向上と社会への貢献に努める

NAGASE ビジョン

社員の一人ひとりが、日々の活動で「見つけ、育み、拡げる」を体現することにより、「人々が快適に暮らせる安心・安全で温もりある社会」の実現に貢献する

NAGASE の方針と計画

方針: 成長手段および注力する領域、資源配分の方向性
計画: 目標(主に計数)およびアクションプラン

■ 長期経営方針の骨子は「成長に向けたチャレンジ」と「経営基盤の強化」

成長に向けたチャレンジ	成長を支える経営基盤の強化
<ul style="list-style-type: none"> ・ 事業投資の拡大 ・ オーガニック成長の加速 ・ グローバルビジネスの拡大 	<ul style="list-style-type: none"> ・ グローバルガバナンスの再構築 ・ 人材マネジメントの多様性拡大 ・ 安心/安全の提供 ・ コミュニケーションインフラの整備

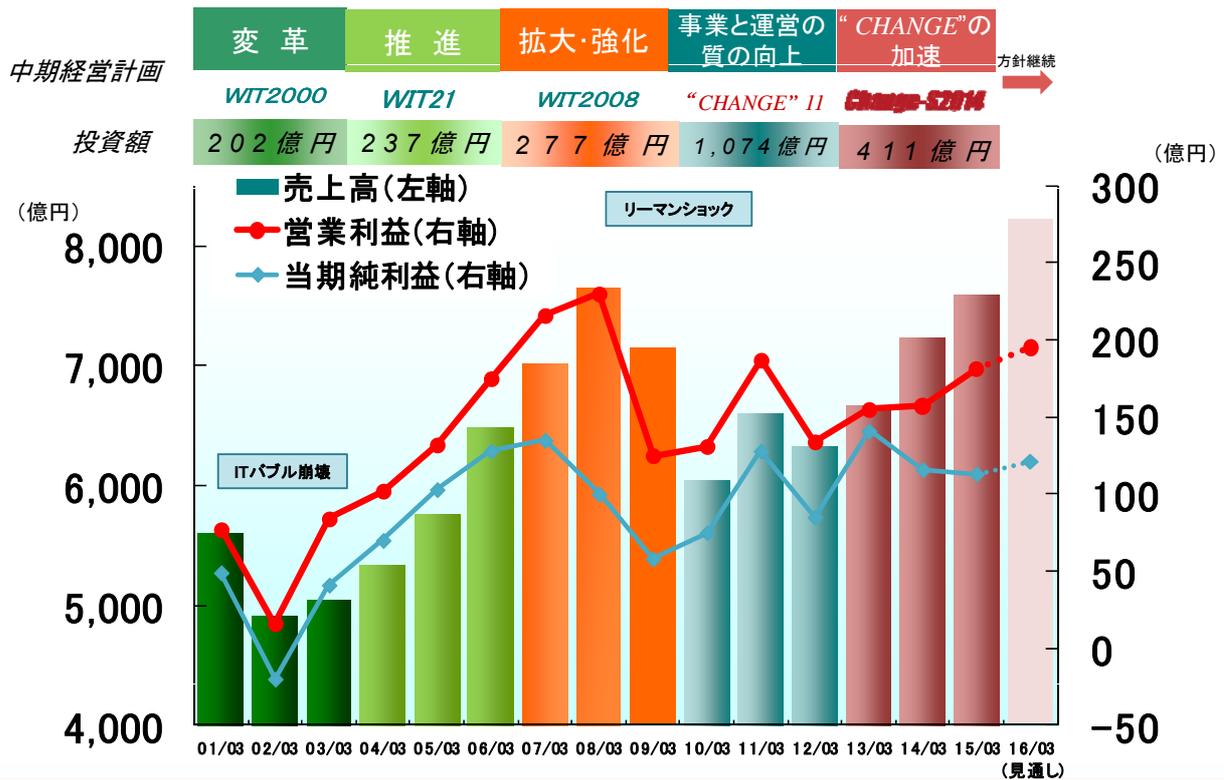
成長に向けたチャレンジ

- ・ 注力領域への経営資源の投下と日本に依存したビジネス運営からの脱却を通じ、これまでの事業の延長だけでは成し得ない飛躍的な成長を実現する
- ・ 成長への手段として、大型投資も含めた事業投資を検討する

成長を支える経営基盤の強化

- ・ 成長に向けたチャレンジを成功に導くために、事業の拡大とグローバル化に寄与する経営基盤を構築する

■企業価値向上に向け、低位安定からの脱却へ



(参考資料)セグメント別概況

<所在地別売上高・営業利益>

(億円)

	15/03期		16/03期		
	通期実績	前期比	通期見通し	前期比	
売上高	国内	1,631	98%	1,672	103%
	海外	454	104%	526	116%
	連結調整	▲403	-	▲422	-
	合計	1,682	99%	1,776	105%
営業利益	国内	33	90%	33	102%
	海外	10	153%	11	105%
	連結調整	▲1	-	▲0	-
	合計	43	99%	44	102%

※上記数値は、所在地別の連結会社数値の合算になります。
地域間連結消去を加味していない為、連結調整項目にて調整しております。

2015年3月期 実績

売上高 1,682億円(99%)

- ◆機能化学品事業は、建築・建材塗料等の塗料原料ビジネスおよび中東地域での基礎化学品販売等が低調に推移し減収
- ◆スペシャリティケミカル事業は、電子材料向けの原料およびエポキシ化合物製品の輸出がやや低調に推移したが、金属加工油剤メーカーへの国内販売および封止材関連の輸出が堅調に推移し増収

営業利益 43億円(99%)

- ◆国内製造事業の低調等により減益

2016年3月期 見通し

- ◇国内は、製造事業および塗料原料販売が復調
- ◇海外は、欧州での塗料製造工程消耗品の販売等が復調
→全体で増収増益となる見通し

<所在地別売上高・営業利益>

(億円)

	15/03期		16/03期		
	通期実績	前期比	通期見通し	前期比	
売上高	国内	1,618	102%	1,678	104%
	海外	1,569	110%	1,824	116%
	連結調整	▲646	-	▲678	-
	合計	2,541	106%	2,824	111%
営業利益	国内	24	133%	24	102%
	海外	23	131%	29	122%
	連結調整	+0	-	+1	-
	合計	48	130%	54	112%

※上記数値は、所在地別の連結会社数値の合算になります。
地域間連結消去を加味していない為、連結調整項目にて調整しております。

2015年3月期 実績

売上高 2,541億円(106%)

- ◆色材事業は、顔料・添加剤の売上は堅調に推移したが、情報印刷関連材料等の売上の低調等により横ばい
- ◆OA・家電用途関連事業は、北東アジアおよび東南アジアにおいて合成樹脂販売が好調に推移し増収
- ◆機能性フィルム・シート及び樹脂成型品関連事業は、合成樹脂、液晶テレビ反射板用材料および導電性高分子材料等が好調に推移し増収

営業利益 48億円(130%)

- ◆増収および製造子会社の損益改善等により増益

2016年3月期 見通し

- ◇国内外において樹脂販売が好調に推移
- ◇樹脂コンパウンド製造子会社において損益改善
→全体で増収増益となる見通し
(特に北東アジアが好調に推移)

<所在地別売上高・営業利益>

	(億円)				
	15/03期		16/03期		
	通期実績	前期比	通期見通し	前期比	
売上高	国内	1,410	105%	1,464	104%
	海外	810	107%	940	116%
	連結調整	▲721	-	▲780	-
	合計	1,499	109%	1,624	108%
営業利益	国内	37	88%	38	101%
	海外	19	85%	31	162%
	連結調整	▲1	-	▲2	-
	合計	55	87%	67	120%

※上記数値は、所在地別の連結会社数値の合算になります。地域間連結消去を加味していない為、連結調整項目にて調整しております。(のれん償却含む)

2015年3月期 実績

売上高 1,499億円(109%)

- ◆電子化学品事業は、重電・弱電向け変性エポキシ樹脂関連の売上は減少したが、半導体、液晶パネル製造用薬液等の売上が増加し、横ばい
- ◆電子資材事業は、LED関連部材、ガラス関連事業及びタッチパネル用部材販売等が好調に推移し増収

営業利益 55億円(87%)

- ◆北東アジアにおけるガラス関連事業が復調したが、プロダクトミックスの悪化による利益率の低下や台湾の子会社における貸倒引当金計上等により減益

2016年3月期 見通し

- ◇変性エポキシ樹脂関連及びスマホ・タブレット関連が好調に推移
- ◇中国でのガラス関連事業が好調に推移
- 全体で増収増益となる見通し

<所在地別売上高・営業利益>

	(億円)				
	15/03期		16/03期		
	通期実績	前期比	通期見通し	前期比	
売上高	国内	553	107%	553	100%
	海外	759	118%	839	111%
	連結調整	▲214	-	▲219	-
	合計	1,098	110%	1,174	107%
営業利益	国内	0	-	▲2	-
	海外	22	128%	22	100%
	連結調整	▲1	-	▲0	-
	合計	22	217%	20	90%

※上記数値は、所在地別の連結会社数値の合算になります。地域間連結消去を加味していない為、連結調整項目にて調整しております。

2015年3月期 実績

売上高 1,098億円(110%)

- ◆自動車関連事業は、海外における営業体制強化や商材拡充により国内、中国および北米において売上が増加し増収
- ◆エネルギー事業は、太陽光発電関連商材が伸長し、蓄電池システムの販売も寄与したこと等により増収

営業利益 22億円(217%)

- ◆増収および国内製造事業の損益改善等により増益

2016年3月期 見通し

- ◇自動車関連事業において、北米は引き続き好調に推移するものの、国内・中国の低迷等により減益
- 全体で増収減益となる見通し

＜所在地別売上高・営業利益＞

	(億円)				
	15/03期		16/03期		
	通期実績	前期比	通期見通し	前期比	
売上高	国内	950	100%	1,014	107%
	海外	124	113%	133	107%
	連結調整	▲309	-	▲324	-
	合計	766	100%	823	107%
営業利益	国内	62	93%	64	103%
	海外	2	76%	3	106%
	連結調整	▲33	-	▲33	-
	合計	31	79%	34	108%

※上記数値は、所在地別の連結会社数値の合算になります。
地域間連結消去を加味していない為、連結調整項目にて調整しております。(のれん及び技術資産償却含む)

2015年3月期 実績

売上高 766億円(100%)

◆ライフ&ヘルスケア製品事業は、スキンケア分野におけるAA2G®の販売が減少したが、食品素材分野においてトレハ®等の海外販売体制の構築が進み売上が増加し、加えて医療材料の売上が増加したこと等により増収

◆ビューティケア製品事業は、消費税率引き上げに伴う駆け込み需要の反動の影響や新商品の販売が低調だったこと等により減収

営業利益 31億円(79%)

◆自社製品の売上減少および一般管理費の増加等により減益

2016年3月期 見通し

◇ナガセ医薬品など国内製造子会社において収益改善
◇林原はトレハ®を主として増収を見込むものの、一般管理費の増加等により営業利益は微減
→全体で増収増益となる見通し

長瀬産業株式会社

<http://www.nagase.co.jp>

当プレゼンテーション資料には、2015年5月26日時点の将来に関する前提・見通し・計画に基づく予測が含まれています。世界経済・競合状況・為替変動等に関わるリスクや不確定要因により、実際の業績が記載の予測と異なる可能性があります。